

岩手県ユニセフ協会 Information

ユニセフ街頭募金活動 ハンドインハンド ボランティア募集!!

2014年テーマ:誰もが大切な“いのち”

盛岡会場

12月13日(土)	12:00~15:00	●カワトク前 ●アンクスカワトク ●イオンモール盛岡南 ●クロステラス盛岡 ●MOSSビル ●ホットライン肴町
12月14日(日)	12:00~15:00	●イオンモール盛岡



ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金は
誰もが参加できる身近な国際協力です。

花巻会場

12月6日(土)	13:00~15:00	●イトーヨーカドー ●ビフレ ●アルテ
----------	-------------	---------------------------

ユニセフ出前講座の予定

岩手県ユニセフ協会では下記の日程で「ユニセフ出前講座」を実施します。講座では、実際に体験したり学習しながら世界の子どもたちの現状を学んでいます。講座をご希望の方は岩手県ユニセフ協会まで。



日 時	会 場
11月5日(水)	金ヶ崎町立永岡小学校5・6年生
11月12日(水)	盛岡市立上田小学校5年生
11月19日(水)	大船渡市立末崎中学校3年生
11月21日(金)	久慈市立大川目中学校2年生

ユニセフカード&ギフト ユニセフ・カードとギフト秋・冬号2014

2015カレンダー、年賀ハガキ、クリスマスカードなど種類も豊富です。カタログご希望の方は事務局まで。



ユニセフの素敵なグリーティングカードやはがき、年賀ハガキ、お洒落なファッショングッズ、可愛い子ども用品がいっぱい♪
ユニセフ製品は、製品代金の約50%がユニセフ活動資金として世界の子どもたちのために役立てられます。

領布活動は今年度限りで終了します。事務所でも取り扱っています。

あとがき

2014年度ユニセフ募金

1,000万2,246円
2014年1月1日～2014年9月30日

●一般募金

(生協ネパール指定募金含)

●シリア緊急募金

●フィリピン台風緊急募金

ユニセフ賛助会員: 新加入・個人13人

賛助会員として世界の子どもたちを応援してください



ユニセフ日本委員会として、日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー(政策提言)活動を担う日本ユニセフ協会を、年会費によってご支援いただく方法です。会員登録をしていただき、日本ユニセフ協会の機関誌やさまざまなユニセフの資料を通して、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めてみませんか。国内で行われるユニセフ協力活動の情報を人手し、さまざまなイベントにご参加ください。

賛助会員の種類・会費・会員期間

種類	対象	賛助会員	賛助会員期間
①一般賛助会員	個人の方	1口 5,000円	入会月～1年間
②学生賛助会員	18歳以上の学生の方	1口 2,000円	入会月～1年間
③団体賛助会員	団体、法人、企業	1口 100,000円	毎年4月～翌年3月までの1年間

○東日本大震災でユニセフが支援していたプレハブの大槌町保育園・幼稚園が、新園舎に移転し子どもたちの嬉々とした笑顔が見られました。震災を乗りこえ、理事長・園長先生はじめ先生方は新園舎建設にどれだけご苦労なさつたことでしょうか。みんなでエールを送りたい。
○ユニセフ・キャラバンキャンペーンで来盛した(公財)日本ユニセフ協会学校事業部部長水野真里子さんは、「岩手の子どもたちにも途上国の現状を知ってほしい。地球市民として種をまきたい」と。水野部長は、ユニセフ東日本大震災緊急復興支援本部東北代表として、被災地にもなんども足を運び支援活動に取り組んできました。地球市民として私たちにできることはいっぱいあります。(事務局)

岩手県ユニセフ協会ニュース No.35

unicef

Iwate Association for UNICEF

2014年11月

【発行】

岩手県ユニセフ協会

(旧 日本ユニセフ協会岩手県支部)

〒020-0690

岩手県滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2F

TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491

e-mail : sn.unicef_iwate@todock.jp

ホームページ http://www.unicef-iwate.jp/

3.11私たちは忘れない、 子どもにやさしい復興をめざして



▲高橋道明氏～言葉がつまってしまう場面も何度か…

9月27日(土)岩手県水産会館で「いわてユニセフのつどい 2014」を開催しました。

つどいに先立ち、「シュンヌンヌン」(聞いてください)子どもたちからのメッセージ、ユニセフDVDを鑑賞し、世界の子どもたちの現状を知りました。

はじめに「3.11私たちは忘れない、あの時学校は、子どもたちは…」と題して高橋道明氏(岩手県教職員組合釜石支部書記長)よりお話をいただきました。震災当時釜石市立白山小学校に勤務されており、その当時の経験を詳しくお話ししてくださいました。学校の教職員という立場から避難所職員という立場に変わり、自分の家族のこととも気になりながら、誰もが経験したことのない中、手探りで避難所の運営にあたられたご苦労に参加者一同感銘を受けました。更に、「学校はやはり地域の中心」ということも再認識することができました。“学校”だったからこそ地域の住民と連携することができ、食料や物資の調達も可能だったように感じられました。

60名の参加者の中には、教職経験者の方の参加も多く災害時の教員や学校の在り方に大きな関心が寄せられました。「当たり前のことが当たり前にできるしあわせ」高橋先生のこの言葉が参加者の心に強く残りました。

次に「子どもにやさしい復興」と題して森田明彦氏(尚絅学院大学教授)より、震災復興に子どもの権利条約をどう活かしていくかをテーマにお話ししていただきました。岩手県とも深いかかわりのある、新渡戸稻造や賀川豊彦に触れながら、子どもの権利条約について説明していただきました。東日本大震災に関連して、子どもの意見表明権、また子どもの“語らない権利”的尊重についてお話し下されました。参加者からは、「語らない権利の尊重も大事だが、子どもたちが語れる環境を作つてやることも大人の役割ではないか」という意見も出されました。

東日本大震災復興支援

プレーカーが
岩手に
やってきた!!



日本ユニセフ協会と日本冒険遊び場づくり協会と提携して、移動式遊具で遊び場を開設していますが、今春から3台に増車され、7月から陸前高田市・釜石市・大船渡市で遊び場を提供しています。



▲10月5日 釜石せいきょうよまつり



▲8月2日 大船渡さとやまプレーパーク



☆「教職員は避難所職員になる」言われれば確かに思いますが、それを現実に行った先生方はどれだけ大変だったでしょうか。体験した方しかわからないですね。
☆つらさやしんどさは一人ひとり違う。その全て受けとめる学校、先生達はすごい!
☆実際に体験したお話に涙の出る思いでした。大変なご苦労に感動し、感謝でいっぱいです。
☆寒い中で、自主的に行動し、必要な物を集め、共同生活に協力したという子どもたち、がんばったんだね。
☆子どもたちの笑顔が周りの人に夢と希望を与えるという先生の言葉がとても心に残りました。
☆いつまでも忘れませんヨ!!



▲森田明彦氏～90年前生協創始者賀川豊彦は6つの子どもの権利を提唱



東日本大震災復興支援

子どもにやさしい復興をめざして

さとやまるごとプレーパーク 大槌町小鎌川・河川敷

プレーパークは、じぶんたちのしたいことをじゅうにあそぶひろばです。

8月2日、特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会と(公財)日本ユニセフ協会主催の里山まるごとプレーパークが大槌町小鎌川・河川敷で開催されました。河川敷は、まごころの郷・遠野まごころネットで管理されており自然豊かな場所です。子どもたちはネット遊びや花壇づくり、プレーカーの道具を使って遊びました。

川ではボート遊び、和工房でコマづくりなど盛りだくさん……

みどり幼稚園の園児、親子づれの子どもたちの嬉々とした声……

プレーリーダーや学生ボランティアに見守られ、たのしい、たのしい第1回さとやまるごとプレーパークでした。



▲べいごま…むずかしいなあ

▲ネットの上で楽しむ子どもたち

ボードゲーム会



▲9月28日 けせんせいきょうまつり

▲10月26日 宮古市田老 げげだす工房まつり

ユニセフ・キャラバンキャンペーン来県

10月16日、(公財)日本ユニセフ協会、ユニセフキャラバンキャンペーンが岩手県入りし、国際理解と協力活動を広げ、地球市民意識をもった子どもたちを育てることを目的に、達増拓也岩手県知事、高橋嘉行教育長とのメッセージ交換、教職員の研修、17日は、盛岡市立下橋中学校、県立盛岡南高等学校で全校生徒を対象に出前授業を実施しました。



▲達増知事とメッセージ交換する
学校事業部長水野眞里子さん

▲教職員のユニセフ研修



▲盛岡市立下橋中学校の出前授業

ユニセフの東日本大震災復興支援活動は、4年目に入り国内の専門家や専門団体、地元自治体などの協力を得ながら、地元のみなさまが主体となった復興への取り組みを岩手県ユニセフ協会は、日本ユニセフ協会と提携し続けています。

大槌町キッズコーラスあぐどまめ・キャラホール少年少女合唱団ふれあい交流会

たのしかったキャンプファイア!♪ 歌うのが大好き!♪

大槌町キッズコーラスあぐどまめと盛岡キャラホール少年少女合唱団のふれあい交流会は、震災以降毎年行われており、今年も7月19日～20日、山田町陸中海岸青年の家で開催し、その成果を地域住民のみなさんに聴いていただきました。

ふれあい交流会には、大槌キッズコーラスあぐどまめ16名と、キャラホール少年少女合唱団(団員小1～中3・OB)から39名の参加で、元気いっぱい野外炊飯とキャンプファイアで楽しい交流会となりました。

大槌キッズコーラスあぐどまめ児玉尚汰君(大槌小6年)は、「キャラホールのお兄さんたちとお話したり交流でき楽しかった」、キャラホール少年少女合唱団西里彩花さん(中学3年)は、「今年で三回目の参加、沿岸に来て津波のこわさを実感しました。大槌のみんなと仲良くなり楽しかった」



▲赤沼利加先生の指導で合同合唱

▲仮設住宅に住んでいらっしゃる方々をご招待しました

夏休み映画上映会

7～8月、沿岸地区の子どもたちを対象に子ども映画会が開催されました。三陸鉄道やバスで宮古シネマリーンで、大船渡市・大槌町の児童館で開催し、約600名が参加し「思い出のマーニー」「ポケモン2014」に楽しい時間を過ごしました。



▲宮古シネマリーン 僕は2回目、とても楽しかった(5年生)

▲大船渡小、盛小、大槌学童で上映会、
クリヨンしんちゃん、ドラえもんなどに大喜び

▲大槌学童上映会で記念撮影

球根植えにいってきました!!

10月22日大槌町大槌保育園、おさなご幼稚園、10月29日みどり幼稚園に、ビオラとチューリップの球根植えにボランティア32名が参加しました。今年も兵庫県ユニセフ協会からチューリップの球根をいただきました。



▲おさなご幼稚園の園児たち

▲みどり幼稚園園児たち ありがとう!!



▲みどり幼稚園ボランティアスタッフ

▲大槌保育園ボランティアスタッフ

「ユニセフ平和チャリティーコンサート」開催される

岩手県ユニセフ協会花巻友の会設立25周年記念

「ユニセフ平和チャリティーコンサート」

今年25周年を迎えた岩手県ユニセフ協会花巻友の会(林 正文会長)は、7月27日、花巻市文化会館において、花巻友の会25周年記念「ユニセフ平和チャリティーコンサート」を開催しました。同コンサートには、上田東一花巻市長はじめ、全日本合唱コンクール金賞に輝く岩手県立不来方高校音楽部の特別出演、市民コーラス(コーラス四つ葉・響流はなまき)の皆さん、市内中学・高校音楽部の皆さんにも出演いただきました。最後には会場の皆さんと「星めぐりの歌」「ふるさと」を大合唱し、感動的なステージとなりました。



▲コーラス四つ葉「夢をあきらめないで」ほか



▲来賓挨拶:上田東一花巻市長



▲県立不来方高校音楽部の合唱「さとうきび畠」



▲響流はなまき「あの鐘をならすのはあなた」ほか

ユニセフ、世界各地で相次ぐ人道危機に対応

ユニセフ・物資供給輸送オペレーション部 部長のシャネル・ホールは「ユニセフは、同時に複数の異なる国々での大規模なニーズに対し、幅広く物資供給を展開しています。支援を必要としている子どもたちにこれらの支援物資を届け続けるには、人道支援回廊を確保することが不可欠です」と述べました。イラクの戦闘や西アフリカでのエボラ出血熱への対応拡大を見越し、ユニセフは、できる限りのチャーター・フライトを確保していました。デンマークのコペンハーゲンにある物資供給センターからは、27日間で支援物資を積んだ緊急貨物便33便が飛び立ちました。

アフリカ緊急募金(エボラ出血熱)、人道危機(中央アフリカ・南スーダン・カザフスタン)、シリア緊急募金など、この8月、ユニセフはその歴史上、1ヶ月では過去最大量となる1ヶ月間で1,000トン緊急支援物資を供給しました。



©UNICEF/NYHQ2014-1300/Jallanzo

エボラ出血熱の支援のために空輸された緊急支援物資(リベリア)



©UNICEF/NYHQ2014-0819/Khuzaie

避難を強いられている人たちのために届けられた、毛布や水と衛生の緊急支援物資(イラク)

「エボラ出血熱緊急募金」にご協力を



©UNICEF/NYHQ2013-1288/Terdman

すぐに口にできる栄養治療食を食べる子ども(中央アフリカ共和国)

2014年3月、ギニアの感染を皮切りに西アフリカを中心に感染拡大を続けるエボラ出血熱、8月にはWHO(世界保健機関)が非常事態宣言をしました。10月時点で、感染が確認された感染者は約10,000人ものぼり、約5,000人が尊い命を奪われています。また、ギニア、リベリア、シェラレオネでは、少なくとも250万人の5歳未満の子どもたちが感染の恐れがある地域で暮らし、危険にさらされています。命の危険に直面する西アフリカの子どもたちを守るユニセフの活動を支えるための緊急募金にご協力をお願いいたします。